

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞「銅賞」

今の僕達にできること

加須市立加須東中学校

一年 松本 陽輝

小学生の時の社会の授業で、国民には、税金を納める義務があることを知りました。僕も買い物をした時に消費税をはらいます。買う物は安いほうがうれしいし、お金を貯めたい気持ちもあります。

しかし、風邪などで病院に行った時、僕はお金をはらわずに病院の先生にしんだんしてもらい、薬も出してもらえます。僕の住んでいる県では、一八歳まで医りよう費が支給されていると両親から聞き、驚きました。両親はその他にも、家や仕事など色いろなことに税金がかかることも教えてくれました。道路を直したり、ゴミ収集など、市内でも色いろな所で税金が使われていることも知り、少し身近に感じました。

今、両親は働いています。今後両親が高齢になる頃には若い世代が減って、支えるほうの人手が少なくなり少子高齢社会になるそうです。僕達は、今より多くの税金をはらうことになるのかと思うと心配になります。僕達の未来が困らぬように、今のうちから考えて、少しずつ何か実行していかなければならぬのではないのか。今僕達ができることは何があるのかと思ひ、子供や老人などが暮らしやすくなるにはどうしたらよいか、今のうちから学んで、考えることが大切だと思ひました。

今回勉強している時、復興特別税という税金の種類があることも知りました。災害が起き、復興が必要な時のための特別な税金を納めるそうです。消費が上がったり、納める税金が増えても、給料は上がらないと大変だと両親も困っています。

「中学生の僕ができることは何かあるかな。」と考えました。

僕達は無料で病院に行けているのは両親や大人達が税金を納めてくれているからなので中学生の僕達は体調管理をしつかり行なつて、病気やけがをなるべくしないこと。それが回つて大人を助けることにつながると思ひます。そして、働けるようになったり、成人したら納める税金をきちんと納めることだと思ひました。そして、今の首相が増税の話をしていますが、きちんと選挙に行つて誰に国や県や僕たちの住んでいる市を任せることができるのかよく見て、選挙に行き、投票し、自分の意志をきちんと市や県、国に伝えていくことが大切だと感じました。それが将来、僕達が住みやすい国につながるの、今できることをやつていこうと思ひました。

税金と考えると難しそうですが、教育、子育て、医療など中学生の僕達の暮らしも税金が大きく関わっています。これまで、戦争や災害などがあつても守つて、復興して、国を支えてきてくれた人達がいたように、これから僕達がこの国を背負っていく番です。より良く暮らしやすい国になるように努力していくと思ひます。それには一人一人が自覚を持つことと、自分の国を好きになることが大切だと思ひました。